



楽庵ニュース 第8号

2013年4月30日

発行元:NPO 法人茅ヶ崎ユニバーサルデザインスクエア

地域活動支援センター 楽庵

茅ヶ崎市浜竹3-4-64石黒ビル2F

TEL&FAX 0467-86-5898

ホームページ <http://park11.wakwak.com/~rakuan>

メールアドレス rakuan@aq.wakwak.com

*長楽萬年(古代文字):楽しいことの幾久しく限らないこと。

楽庵設立10年を祝い イタリアンで昼食会



楽庵にて

茅ヶ崎里山公園にて

茅ヶ崎北部から藤沢にかけての
一帯にはたくさんの谷戸が存在し、かつては「九十九谷戸」と呼ばれており園内にある「柳谷(やなぎやと)」には谷戸田や畑、雑木林などの里山の風景が広がっており様々な生物が生息していました。昔の人が生活するために林を利用していた里山で豊かな自然とともに里山文化を体験できる公園です。

(所在地) 茅ヶ崎市芹谷 1030



撮影 茂木

平成一五年にスタートしたNPO法人茅ヶ崎ユニバーサルデザインスクエア地域活動支援センター楽庵は、今年で十年目を迎えます。三月にはメンバー全員で隣接する楽庵でイタリア料理を楽しみました。ひとりひとり近況を話しながら自己紹介し、普段会うことのないメンバーと顔を合わせました。この十年間には、就労したり移籍したメンバーもいますが、高次脳機能障害という後遺症がある方々のよりどころとして機能してきました。

害の作業所は少なく、横浜で開催された脳損傷者ケアリングコミュニティ学会で紹介されました。学会の求めに応じてメンバーとスタッフがビデオ撮影されました。メンバーは、「地域の受け皿として楽庵があつてよかった」と明るく話していました。

ケアリングとは、当事者を介護する側が一方向でケアすることではなく、お互いが影響しあいつつ双方向に支えあう関係であり、さまざまな職種立場の人々も双方向の関係性で活動することを意味しています。

神奈川大会で楽庵が紹介されたのも茅ヶ崎市というコミュニティで暮らすさまざまな人の協力と支えで活動している運動体であることが評価されたからだと考えています。

今後も多くの方を結集してよい活動をしていきたいと思えます。

楽庵のいきいき活動報告



茅ヶ崎市総合体育館で行われた「ふれあい作品展」

地域活動支援センターとして松浪地区福祉協議会等の協力も受けて地域に密着した居場所作りをしてきた。病気の後遺症のために今までの生活が維持できなくなつて気持ちの上でも生活面でも不自由になり、まずは地域の受け皿として自分で生活を立て直す場としてともに生きてきた。多くの方は自分からまた新しい活動場所を見出して独立していく。長年通所していくうちに生活のリズムの一部になつていくメンバーもいる。また余暇の楽しみとして陶芸活動をして、作品展で売れる作品をひとりできるよつた人もいる。人生が常に順風満帆で健康でいられるわけではなく、ときに病気になる停滞し自分の生き方を躊躇することもある。同じような経験をした先輩に、行きつまつた道を打開してもらえらるチャンスは大切かと思われる。

楽庵はサロンのような家庭の茶の間のような場所を提供してきた。今後も新しいスタッフとメンバーで自然や文化を楽しむ活動を提供していきたい。湘南茅ヶ崎は白砂青松の海岸だけではなく、藤沢や寒川の際には神奈川県立里山公園もあり里山文化を味わえる。今年は山藤が咲き、れんげ草や菜の花が一面に広がった里山で森林浴を楽しんだ。茅ヶ崎市という景勝の土地で豊かな文化を共有していきたい。

楽

楽しいという文字は本の上で人が向かい合つて太鼓をたたいている姿を語源としているという説があります。祭りの日に太鼓を打つて響きあい共鳴しい日常の糧を喜びあう楽しさは日本人の心の源泉です。

ICFとこれからの取組

新しい障害観であるICF（国際生活分類）は障害あるなしにかかわらず自立と社会参加をめざした生涯の「ひとりひとりのニーズ」に応える「共通理解のためのツール」です。ICFは機能生活機能低下（障害）や社会的不利だけを個人の課題とするのではなく環境因子を重視します。障害に由来しないその人の特性や地域環境と人との相互関係を多角的に総合的に評価することから社会参加を促します。これまでの楽庵はパソコンと陶芸作業というメニューでしたがより選択できる内容に改編していきます。長年海外の方へ日本語教育をされてきた伊藤恵子さんがコーチングという手法でその人のありのままの特性にあったニーズをメンバーと一緒に考えます。（コーチングとは対話を通じて個人の能力を可能な限り引き出し個人や集団の在りたい姿に向けて自分らしく進むのを手助けする技法をいいます）また菜園で田辺和男さんが畑作業をします。ユニバーサルデザイン菜園をめざし車椅子でも楽しめるようにと願っています。手芸は関根好子さんをお願いしています。また音楽活動に関与されて

楽庵とのであい 小嶋正和

病前は会社で営業をしていた。仕事一筋であったが夏休みに家族と北海道旅行にかけた。後日、あの坂本九が乗った墜落した機種と偶然同じ飛行機に乗っていたことがわかり、死を予知したような衝動を覚えた。健康に恵まれていたが恐れていたことが起きた。定年間に突然の脳出血で倒れたのだ。

現実には臨死体験をし、家族に心配をかけた。高次脳機能障害という後遺症でいろいろなことが覚えていられなくなった。昔のことは覚えていても日々の今経験したことを忘れてしまうはがゆい毎日。リハビリに励むしかななく3か月の病院生活を余儀なくされた。復職も考えたがみんなの足をひっぱってしまうと考えると頑張ったけれど三年の勤務を終えた。働いていたあいだにはいろいろな出会いや学びがあり感謝

の気持ちで自然とわいた。入院していた病院から楽庵を紹介してもらい最初はいろいろな人の援助を得た。メンバーやスタッフとともに過ごすのが楽しく陶芸もできるようになり好きな酒の杯を作っては友人に渡すことができるようになった。飲み口の薄い杯も作れる。通所するのが楽しくなった。今家庭でも二人の孫に教えてもらおう生



きた小橋裕子さんが音楽環境も含めて指導します。これまで関与してきた竹内嘉宏さん野田恭子さん大澤訓一さん大澤初枝さん茂木春樹さんもいままでと変わらずにチームとして活動する予定です。個別のニーズをていねいに聞きとるために順次個別相談も開始していきたいと思います。スタッフとともによりよい居場所をめざしたいと思います。



自然がいっぱいの里山公園を散策する小嶋正和さん＝茅ヶ崎市芹沢

手芸を楽しみませんか？

毎月1回木曜日に簡単な手芸教室をいたします。地域の皆様にもご参加いただけるようご案内いたします。基本は第一木曜日です。初回は5月16日1時から3時までです。(先着5名様 参加費 実費のみ) 氏名 住所 連絡先 参加希望月をFAXでお知らせください。こちらからご連絡します。

湘南 四季の花
水田は一時ピンクのレンゲソウが、おおい
茅ヶ崎市堤





この人

楽庵理事 鈴木 昌子さん

未知の世界を知って

浜竹三丁目に楽庵が作業所を開設して、自治会から役員選出してとの依頼を受けて当時副会長であった私が選ばれました。そこで楽庵を知ることにになりました。中途障害者とはどのようなひと達なのだろうか。作業所とは何をするところなのだろうか。何もしらないことばかりで役に立つのだろうか。そのような思いが頭の中を駆け巡り不安いっぱいでした。理事会に参加しました。

その後、自治会の役員として地区社会福祉協議会に参加して作業所などの存在を知り、こんなに身近で活躍しているのを知りました。さて

私にいったい何ができるだろうか。自分のまわりを見回してもメンバーさんに直接力になれる

ことは無い・・・結果参加することに意義を見出し背伸びしないでできることを自然にする。スチンスで楽庵の理事になりました。理事会の方とは知り合ってもメンバーさんとお会いする機会は無かったので楽庵で陶芸教室を開催したときに参加してメンバーさんの生活を垣間見ることができました。作業所の様子を理解して何かの提案をしたいと考えての陶芸教室への参加でしたがいまだに何も役にたっていないようです。だからのためではなく自分のために知らなかった世界を知ることには意義を感じて理事を続けていこうと思っています。(写真は楽庵にて)

☆新刊☆

摂食コミュニケーション
ーション研修会を
主催するひとりの
歯科医師黒岩恭子
先生が「なぜ黒岩恭
子の口腔ケア&口腔
リハビリは食べられ
る口になるのか」を
出版されました。
デンタルダイヤ
モンド社定価五千
円。長年の臨床を解
剖学生理学の専門
家が解説していま
す。

編集後記



ようやく楽庵ニュースを出すことができました。昨年は、カメラマンの茂木春樹さんが病気をされてから二十五年ぶりにハンガリー、オーストリア、チェコを外遊したうれしいニュース。今回は茂木さんと大澤さんが編集に携わり高校の新聞部のような和気藹々の作業をいたしました。



慶応大学・湘南藤沢キャンパス＝藤沢市遠藤

楽庵では新しい職員が新しい発想で次の十年を継続していきます。所長の妻近藤裕美は昨年藤沢にある慶応大学院環境情報学部の認知脳科学講座で茂木さんも同行して「脳の可塑性」の問題を若い研究者に話しました。生涯にわたって人の交流によって脳は活性化することは最近の研究でも明らかです。今年も多くの仲間と茅ヶ崎市の暮らしを豊かにするための努力をする予定です。